

# 県退教通信

2026. 3. 16

## 気力や体力を維持したい

― 年頭に当たって思うこと ―

会長 北爪俊男

正確に言えば「気力や体力を維持したいなあ」すなわち願望です。年とともに体力や気力が衰えるのは「死」に近づいていくのだから当然でしょう。

20代30代の頃の半分くらいの重さしか持てない。畑仕事や植木の剪定は、一日4時間ぐらいいしかできない、しかも休み休みに行いながら。一日二食で三食食べられないし、食べる量も減少した。夜、飲みに行くのが億劫になった。腰や肩が痛い。夜、対向車のライトが非常にまぶしい。夜、数回トイレに行く。でも、逆に考えれば、70歳代後半で前述のことができるのだから、年の割には元気かもしれない。同世代を見ても似たようなものがある。

ところで、日本や世界の状況をみると楽隠居を決め込んではいけない。物価が上がって生活が苦しい。世界の大国であるアメリカ、中国、ロシアが、日本の総理大臣が自分勝手なことをしている。日本も世界も問題が山積している。平和で豊かな生活が実現していない。

このような状況を打破し、幸福な生活のできる地域社会をつくり、平和な民主主義国に日本をするために、私たち退職者も活動する必要がある。老骨にむちを打たないで、無理をせずに、だが着実にその目標、目的の実現のために進んでいきましょう。

そのために、気力や体力を維持したい。

## 県退教総会を開催

### 「教え子を再び戦場に送るな」

群馬県退職教職員協議会は、第51回定期総会を6月2日(月)に群馬県学校生協会館で開催した。参加者は、代議員、各種役員、来賓を合わせて34名だった。

松本副会長(碓氷)が成立を確認し、開会を宣言した。

初めに物故者の「御霊」に黙祷、昨年度は17名の方が亡くなった。続いて真下運営委員(太田)の指揮により国民歌「緑の山河」を斉唱した。

次に、北爪会長(太田)があいさつを行い、「政治や社会に関心を持ち続ける大切さと、私達の影響力を保つ上で不可欠な会員確保(組織拡大)の必要性を訴え、誰もが幸せになれる社会を構築するために、引き続き教育・平和

・社会・政治・選挙運動に取り組んでいこう」と呼びかけた。

ご来賓の方々からは、日退教平岡良久事務局長、県教組小濱一博委員長、女教斉藤光枝会長、学校生協高木恵一理事長、中央労金小野格主営業担当部長、参院選立候補予定者河村まさたけ氏よりあいさつを受けた。



定期総会であいさつする北爪会長

続く米寿・喜寿祝いの紹介では、米寿9名、喜寿5名が氏名を紹介され、記念品が北爪会長より贈呈された。

議長には、太田支部の久保田代議員が選出され、報告事項の審議が開始された。

50周年記念誌は、積立金を「能登半島地震の義援金」として石川県退教へ送った事もあり、簡略版で発行したこと、参院選関係で「みずおか俊一さん」との懇談会が県内7支部で開催されたこと等が報告された。

議事では、2025年活動方針案(含、スローガン)、予算案、役員の一部改選等について話し合われ、質疑・討論の後、全員の拍手で採択された。

その後は議長退任、日教組組合歌斉唱、北爪会長発声の「がんばろう三唱」で閉会した。

総会に引き続き、松井正博さん(富岡甘楽平和運動実行委員会事務局)を講師に、記念講演会「『ヒロシマに学ぶ群馬子ども代表団』富岡・甘楽地区のとりくみ」を行った。

松井さんは「この地区の平和運動実行委員会には富岡総合病院を始め多くの組織が加盟し、活動資金調達のため『島原そうめん』を販売し、その収益で子ども代表団派遣児童生徒への補助(当初は全額、2007年頃からは一部)を行ってきたこと及び、その詳しい経緯や尽力された方々」について説明した。



講演する松井さん

## 第31回日退教 組織活動交流集会

10月10日(金)東京都ラポール日教済で「日退教組織活動交流集会」が行われた。

午前中の全体会では、初めに「2024年度組織状況調査」に関する報告が行われ、「トータル会員数の減少傾向が明確になった。」とされた。原因として、現職組合員の減少、コロナ禍による会員同士の接触機会の減少、退職時期が明確ではなくなっていること等があげられた。

つづいて「能登半島地震を経験して」という題で、石川県支部柿平哲夫さんが「自身の母親が行方不明となった事案から、当時の大変な状況と県外での親切的対応、避難計画の矛盾、教職員共済の在り方等」について発表された。なお、石川県の面積はこのたびの地震に伴う海岸線の隆起で、福井県より大きくなったそうだ。最後に「各県退教からの義援金が多ありがたかった。」と話された。



全体会で発表する石川県支部柿平哲夫さん

午後第二分科会では、五本のレポート報告があり、それぞれの内容は以下の通りである。

### ① 江戸川区教職員組合友の会について

・現退一致で組織強化・拡大を目指して  
・会員同士の親睦や社会の動きに対してできる限り参加すること、減少傾向にある現職組合員のバックアップ等々の理由から友の会を結成。(当初は「OB・OG会」)

・2025年は、「奥能登を訪ねて」地元の方々から地震当時や現在の状況について話を聞き、学校・子ども・教育の現況及び現状と今後について学んできた。仮設住宅におけるゴミ・トイレの問題や心の健康等々「自治会」と「集会所」の必要性を知り、学校再開に関する様々な苦難も知る事ができた。

・1975年以降、珠洲市に原発誘致の話があり様々な懐柔策がとられ、反対派への嫌がらせも行われたが、住民の粘り強い反対運動で原発の計画は凍結された。もし建設されていたらと考えると恐ろしい。

### ② 島根原発差し止め訴訟の現状と今後の反原発闘争

・様々な観点から問題のある島根原発1・2号機運転差し止め訴訟は、1999年の提訴から26年が経過。福島事故後1号機は廃炉を決定。広島高裁の申請却下を受け、24年12月7日2号機の再稼働開始。

・住民の生命、身体、生活、文化を守るため、原発を止めるまで国・中電に対して1日でも長く戦い続けたい。若者への働きかけで運動の継承を目指す。

### ③ それだけはやめてください (岩国基地FCLP:空母艦載機離着陸訓練)

・25.9.17、26(土日祝日を除く)地元の強い反対にも拘わらずアメリカ軍は岩国基地でFCLP(空母艦載機離着陸訓練)を強行した。：硫黄島の飛行場損傷のためという理由

最新鋭ジェット戦闘機スパーホーネット、F35Cは、離発着を何回も繰り返し、激しい爆音をまき散らした。昼も夜も実施した。学校、病院、幼稚園、保育園がありたくさんの人が住んでいる。市民の生活がある。話も電話もできない。眠れない。100dbを超えたときもある。120機の米軍機が配備された岩国基地。

山口県退職教職員協議会メンバーは地元の市民と「愛宕山見守りの集い」などで戦争反対の声を上げ続けている。

### ④ 築城基地の現状と私たちの課題

・米軍再編、沖縄の基地負担軽減という事により、福岡県築城(ついき)町にある航空自衛隊基地で、日米共同訓練が繰り返し実施された。米軍施設(駐機場・弾薬庫・滑走路延長等)が次々と設置され、米軍機の受け入れも有事の際のほすが、日米地位協定第2条4項Bにより日米合意があればいつでも共同使用できるようにしようとしている。

### ⑤ 熊本教育ネットワークユニオンの運動

・非常勤講師の処遇改善のため、15年5月18日に熊本県労働委員会に救済申立を行い、9月県教委との団交が始まり、16年2月29日に労働協約を結ぶことができた。

・20年4月1日から非常勤講師は「特別職(労働組合法)」から一般職の会計年度任用職員となり、地方公務員法の全面適用となり取り組みが難しくなってきた。

## 令和7年度 囲碁交流会

—和やかな雰囲気の中、真剣な対局—

十一月十七日の月曜日、甘楽教育会館で行われた。



和やかに対局する参加者

参加者は甘楽六名、前橋、碓氷、太田、各一名のほか役員三名、さらに差し入れしていただいた甘楽支部長の秋山さんの計13名でした。なじみある面々だが、一年ぶりの対局もあり、時間の過ぎるのも忘れ楽しい時間を過ごした。参加費は三百円で、昼食、飲み物、お菓子等がたくさんあった。

市川旭さんほか、甘楽支部の会員に昼食、湯茶、菓子等の手配など今年も世話になった。

## グラウンドゴルフ東毛大会

グラウンドゴルフ東毛大会は、10月27日(月)に太田市の利根グラウンドゴルフ場で5名の参加で開催しました。秋晴れの下3ラウンド24ホールで実施しました。ホールインワンはありませんでした。和気藹々とおしゃべりを楽しみながら競技しました。優勝は65打でまわった前橋支部の角田正さんです。課題は参加者を増やすことです。



参加者が見守る中、第1打を打つ真下さん(太田)

## グラウンドゴルフ中毛大会

11月4日(火) 吉岡町総合公園グラウンドゴルフ場を会場に中毛地区グラウンドゴルフ大会(4ラウンド32ホール)が開催されました。当日は穏やかな陽気で、まだ紅葉も鮮やかなよいコンディションでした。

10名を二組に分けて競技を行い、日頃の練習の成果を発揮した選手が多かったようです。競技ではホールインワン賞が5つも出るという結果でした。主な成績は以下の通りです。

○優勝 角田正さん(前橋)



優勝した角田正さん(右)

スコア 79  
 ○準優勝 野中笑子さん(豊秋クラブ)  
 スコア 87  
 ○第3位 小山二美雄さん(桐生)  
 スコア 95

## グラウンドゴルフ西毛大会

優勝者は2ラウンドで4ホールインワンを達成!

11月8日(土) 富岡市もみじ平総合公園北ゾーン(芝生)にてグラウンドゴルフ西毛大会が行われた。

参加者は甘楽支部6名、碓氷支部5名、前橋支部1名、桐生支部1名、その他6名、合計19名であった。

小倉正之前会長の挨拶、簡単なルール説明の後、4、5名ずつの4班に分かれ練習1ラウンド競技2ラウンドを行った。

プレー終了後、成績発表が行われ、各自賞品、参加賞をもらい大会終了となった。

優勝者は甘楽支部の飯野福男さん、第2位は前橋支部の角田正さん、第3位は桐生支部の小山二美雄さんだった。

小春日和で、周囲の木々の紅葉も美しいかった。

いろいろな大会に参加している人や一年ぶりにクラブを握る人など、巧拙入り交じりながらも和気あいあいと実施することができた。



広々とした会場で競技する参加者

## ボッチャ大会開催

1月26日(月) 運営委員会に引き続き、県退教ボッチャ大会を学校生協で開催した。参加者は役員と運営委員10名。3チームに分かれて試合を行った。

ボッチャはパラリンピックの種目になっていて、年齢や性別に関係なくプレイできる。始めに白い球をコート内に投げ、2チームが赤と青の球を一つずつ投げる。白い球から遠いチームが次の球を投げる。1投ずつ白い球から遠いチームが投げ、一人2球ずつ投げ終わったら時点で、白い球が一番近いチームのチームが勝ちになる。負けたチームの一番近い球より近い球の数が得点になる。氷上で行うカリーングに似ている所もある。

なかなか思うように投げられないが、慣れるにしたがって素晴らしいボールを投げる人も出て、熱戦が繰り広げられた。

県退教ボッチャ大会は今回で2回目の開催になる。今回は順位をつけたり、表彰をしたりしなかったが、来年度はやり方を改善して、より多くの会員が参加できるようにしていきたい。



夢中になってくりひろげられた熱戦

特別寄稿

中央アジア五か国を回って

碓氷支部 松本哲夫

「いつか行きたいね。」が「行こう。」に変わった。それは、息子がカザフスタン赴任が決まったからだ。孫たちに会いに行くことを目的に、我ら夫婦とウズベキスタンの「青の都」サマルカンドを見たいという姉と共に三人でツアーに参加した。



仁川経由で最初の国ウズベキスタンに到着し、ヒヴァにあるイチャンカラ城壁を散策。地元ガイドの日本語による解説に感心しながらその歴史を知った。翌日国境を越え、中央アジアの北朝鮮と言われるトルクメニスタンに入国。悪路を4WDで飛ばして「地獄の門」へ。落盤してできた大穴の中に54年間燃え続けているという炎が見えた。風向きで熱さも感

イチャンカラ

じながらも炎を背景に写真を撮った。

ゲルで一晩明かして悪路を引き返してウズベキスタンに戻った。ブハラではイスマイルサーマニー廟、カラーンミナレットなどを観光し、ツアーの目玉、ティムール王朝の首都であったサマルカンドに行った。そこでは、レギスタン広場の



地獄の門



サマルカンド (レギスタン広場)

建造物に圧倒された。その他にも数えきれないほど織細で芸術的なデザインを施された歴史的遺産が綺麗な形で残されていく驚きを禁じ得なかった。

日本人の墓を、何の所縁の無い山がある日本人が三代に渡って墓守をしてくれている事を知った時に驚くと共に深い感謝の念が沸いた。今回三代目の人から線香をいただいた。お墓に焼香させてもらった。その墓守の方には当時の安倍元首相から勲章が贈られたようだ。

次に行ったキルギスでは木の無い山があることに、そして琵琶湖の9倍あるというイシククル湖をはじめとする雄大な自然に驚いた。最後に訪れたのがカザフスタン。息子一家が暮らすアマルティは二百万都市で高層ビルが立ち並び、車の渋滞は日常茶飯事だった。無事一家が暮らしているマンションにも行くことができた。いつものテレビ電話ではなく実際に会って元気な姿を確認できたことが何よりだった。食事やトイレの問題等大変な思いもしたが、満足な旅となった。

「万博一万人の第九」に参加して

邑楽支部 川島真一

4月13日(日)大阪万博の開幕に合わせ、一万人でベートーベンの第九を合唱しようという催しが行われ合唱団の一員として参加した。当日は朝から雨模様だったが、指揮者の佐渡裕氏が会場に姿を見せると雨が止み薄日が差してきた。

合唱団はウオータープラザから大屋根リング上まで広範囲に広がり、遠くの人々は大型の画面で指揮者を見て、スピーカーを通してオーケストラの音を聴いた。「タイムラグが生じ、とても一つの歌声にはならないのでは」と思われたが、最新の音響・映像設備は、そんな不安を一掃し、大きな一塊の歌声が会場全体に響き渡った。

「一分断が生まれている世界でも再び皆が一つになって喜びを目指そう」という歌詞の主題が、一万人の力強い歌声と共に体現され深い感動を覚えた。



大屋根リング上で合唱する参加者たち

群馬県退職教職員協議会

群馬県前橋市大手町三十一〇教育会館内

発行責任者 会長 北爪俊男

電話 (027) 231-1151 (代)

FAX (027) 234-1294